

別紙

電源開発株式会社 竹原火力発電所 温室効果ガス削減実施状況報告書

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

電源開発株式会社 竹原火力発電所

(2) 事業所の所在地

広島県竹原市忠海長浜2-1-1

(3) 業種

3311 発電所

2 計画の期間

本計画の期間は、平成20(2008)年度を基準年度とし、平成23(2011)年度から平成32(2020)年度までの10年間とする。

3 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標の達成状況

《排出量を削減目標とする場合》

排出量を参考値として記載しています。 単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

| 温室効果ガスの種類 | 基準年度実排出量(a) | 目標年度 上段：見込量(b) 下段：削減率(c) | 計画期間の実績 (上段：実排出量(d)，下段：削減量の対基準年度比(e)) | | | | |
|-----------------------------|-------------|--------------------------------|--|-------|-------|-------|-------|
| | 平成20年度 | 平成32年度 | 平成23年度 | 平成 年度 | 平成 年度 | 平成 年度 | 平成 年度 |
| エネルギー 起源CO ₂ | 613,600 | | 539,437 | | | | |
| 非エネルギー 起源CO ₂ | | | | | | | |
| メタン | 12 | | 12 | | | | |
| 一酸化二窒素 | 365,800 | | 351,600 | | | | |
| フロン類 | | | | | | | |
| 温室効果ガス 実排出量総計 | 979,412 | | 891,049 | | | | |

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：発電電力量(千KWh)

| 温室効果ガスの種類 | 基準年度の実績(a) | 目標年度 上段：目標(b) 下段：削減率(c) | 計画期間の実績 (上段：原単位実績(d)，下段：削減量の対基準年度比(e)) | | | | |
|-----------------------------|---|-------------------------------|---|-------|-------|-------|-------|
| | 平成20年度 | 平成32年度 | 平成23年度 | 平成 年度 | 平成 年度 | 平成 年度 | 平成 年度 |
| エネルギー 起源CO ₂ | 0.069 | | 0.067 2.9 | | | | |
| 非エネルギー 起源CO ₂ | | | | | | | |
| メタン | 0.000 | | 0.000 0 | | | | |
| 一酸化二窒素 | 0.041 | | 0.044 -7.3 | | | | |
| フロン類 | | | | | | | |
| 温室効果ガス 総排出量 | 0.110 | | 0.111 -0.9 | | | | |
| エネルギー消費 原単位(原油換 算kl) | 0.261 | | 0.246 5.7 | | | | |
| 実績に対する 自己評価 | <p>①目標年度の目標値について 当発電所の原単位数値は、当該年度の電力需給状況による設備の利用率および燃料性状により大きく変動することから、目標数値設定が困難であるため設定していません。発電所設備の性能を維持することが温室効果ガス削減に寄与することから、今後も継続して努めてまいります。</p> <p>②平成23年度 発電電力量：7,994,115千KWh(原単位算定に用いた指標)</p> <p>③平成23年度実績に対する評価について 基準年度との差は、発電所利用率の上昇および燃料性状の変動によるものです。利用率の上昇によりエネルギー消費原単位は減少しましたが、特に2号機(流動床ボイラ)において、利用率と燃料性状の変化が大きく現れ、一酸化二窒素が増加し、温室効果ガス総排出量としては微増となっています。</p> | | | | | | |

※ 削減率(c) = ((b) - (a)) / (a) × 100 削減量の対基準年度比(e) = ((a) - (d)) / (a) × 100

4 温室効果ガスの排出の抑制に係る具体的な取組の実施状況

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

| | 項目 | 削減量等 | 具体的な取組み |
|---|------------|-----------|--|
| 1 | 燃料使用量の削減 | 発電所熱効率の維持 | ・定期点検(中間点検)実施による設備性能維持(1・2・3号機) |
| 2 | 電気使用量の削減 | 所内率の低減 | ・3号機通風機の運用見直しによる動力削減 ・発電所補機運転台数の適正運用 |
| 3 | オフィス関係の取組み | | ・冷暖房温度の適正管理 ・不必要な照明の消灯の徹底 ・省エネルギー推進の徹底 |
| 4 | 低炭素化への取組み | | ・1号機、2号機を最新の高効率USC発電所にリプレースし、2020年度の運転開始を目指す。 ・バイオマス燃料の混焼利用の導入。 |

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み(環境価値の活用等)

| | 種類 | 合計量 |
|---|----|-----|
| 1 | | |
| 2 | | |
| 3 | | |

○ その他の取組み

| | 項目 | 数値目標 | 具体的な取組み |
|---|----------------|-------|-------------------------------------|
| 1 | 産業廃棄物の有効利用率の維持 | 97%程度 | ・石炭灰の有効利用促進 |
| 2 | オフィスの資源 | | ・事務用品のグリーン調達率の向上 ・再生コピー用紙の調達率の向上 |
| 3 | 環境負荷物質の排出抑制 | | ・Sox、NOx、ばいじん等の排出抑制の継続 |
| 4 | 環境マネジメントの継続的改善 | | ・マネジメントレベルの維持・向上 ・法令、協定等の遵守徹底 |

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。